

福島医大会津医療センター
副センター長兼付属病院長 大田 雅嗣氏に聞く



おおた・まさつぐ 東京都出身。北海道大医学部卒。東京都健康長寿医療センター副院長などを経て、2010（平成22）年4月、福島医大会津医療センター準備室教授に着任。同センター付属病院副病院長を経て、2019（令和元）年5月、副センター長兼病院長に就いた。血液内科学講座教授も務める。70歳。

専門性高い医療提供

11日で開所から10年を迎えた福島医大会津医療センターの大田雅嗣副センター長兼付属病院長は福島民報社の取材に、専門性の高い医療の提供、医師の確保などの成果を強調し、会津地方で急速に進む人口減少や高齢化に対応した診療体制の充実に努める考えを示した。

「10年の成果は。大学の付属施設としてより専門性の高い医療の提供が可能になった。会津若松市の他の総合病院と共に、会津地方で多くの疾患に対処してきた。福島医大からの派遣などで医師も増えた。認知症や緩和ケアなどを専

若手人材の確保重要

門とする認定看護師の育成にも力を入れている」
「大学の付属施設となったことの効果は。」
「福島医大から医師派遣を受け、センター所属の医師が奥会

津などに診療応援に行く『玉突き方式』による人材確保が実現した。会津大と共同で、人工知能（AI）を使った画像診断に関する臨床研究も進めている」
「近年は新型コロナウイルス対応に追われてきた。」
「初期に院内クラスター（感染者集団）が発生し、保健所や

「人口減少、高齢化に対応する機能を保持しなければならぬ。若手人材の確保も重要だ。」
「今後の課題は。」
「付属病院所属の研修医たちには将来、会津に戻ってきてほしい。そのためにも、病院全体で若手をしっかり育てていく」
「センターの医師らに期待することは。」
「医療人としての目標、進むべき道を明確にしてほしい。会津の医療を担うとの強い思いを持って働いてもらいたい」